

井村屋、バイオマス稼働

燃料費1億200万円削減

ボイラー、ガスから木材へ

【津】大手和菓子メーカーの井村屋は二十二日、津市高茶屋七丁目の本社工場

で、木質チップを燃料とするバイオマスボイラーの稼働を始めた。食品加工に必要な蒸気を起こす燃料を、

価格変動の大きいガスから

木材にシフトさせて燃料費の安定化を図る。

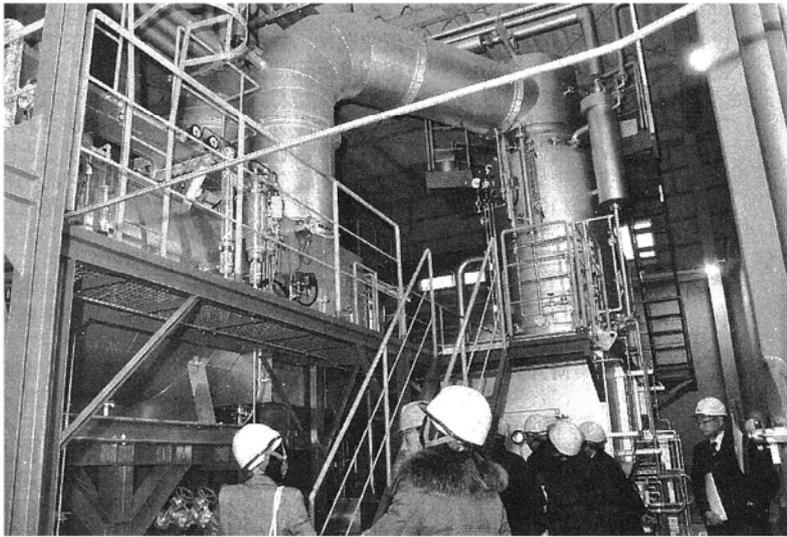
チップの年間消費量は一万二千トンを想定。ガスの使用量を二割程度にとどめ、一億二千万円の燃料費削減を見込む。チップは間伐材や建築廃材を加工している

県内の六者から購入。二酸化炭素の排出量も、一般家庭千世帯分の削減につながるという。

設備投資の総額は四億三千万円。このうち、一億二千五百万円は、経済産業省からの補助金で賄われる。同社は今後、同工場内で蒸気を起こす主な燃料をチップに切り替えるが、燃料の消費量が増える昼間はガスを燃料にした従来のボイラーも併用する。

工場内にはチップを燃焼させる三基のボイラーを設置。それぞれのボイラーに必要な量のチップが自動的に送り出される仕組みで、発生した蒸気はパイプを通じて肉まんなどの生産工程に送られる。敷地内には二日分のチップを保管できるスペースもある。

この日、同工場で開かれた説明会で、井村屋グループの浅田剛夫会長は「これからはエネルギーを自社で創り出す時代。二酸化炭素の削減も企業の使命だ」と



木質チップを燃料とするボイラー＝津市高茶屋七丁目の井村屋本社工場

強調。井村屋の前山健社長は「かねてからの懸念だった燃料費の変動に対応できる」と期待を示した。
(海住真之)